



園だより

第8号

令和3年1月28日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

伝える力 (大人とのかかわりの中で)

今年の節分は、124年ぶりに2月2日となります。節分は、立春の前日と決まっていますが、今年は、立春が2月3日となるためです。節分には、一日も早く安心して過ごせる日が来るように、大きな声で「鬼は外、福は内」と豆をまき、新型コロナウイルスをはじめとする邪気を追い払いたいと思います。

さて、幼稚園教育の重要課題として、言葉で自分の思いや考えを伝える力を育てることがあります。これまで園だよりでも、生活や遊びを通して友達とかかわりの中で、自分の思いや考えを言葉で伝える力を育てる大切さをお伝えしてきました。今回は、大人とのかかわりの中で育つ、伝える力についてお話しします。

2月には、一年間の絵画製作の集大成をご覧いただく展覧会があります。様々な製作遊びを楽しんできた子どもたちは、自分の欲しい素材や道具を、担任に要求できるように育ってきました。年少児の担任が、「自分の欲しい教材を要求できるようになったが、『セロテープ』『折り紙』という表し方で、今後『〇〇をください』と言えるように指導をしていきたい」と言っていました。とても大切な指導です。ご家庭ではいかがでしょう。自分の要求をきちんと言葉で伝え、そして、「ありがとう」と言える子どもを育てていきたいものです。

また、本園では、子どもの怪我を担任だけでなく、管理職も診て対処しています。入園当初は、怪我による動揺や保育室と異なる職員室に来たという不安から、泣き止まない姿も見られました。しかし、今は、引率してきた担任が見守る中、「どこが痛いか教えて」と尋ねると、年少児でも、「ここ」と指さしながら、どうしてそうなったかを伝えられるようになりました。処置が終わって、心が落ちつく「ありがとうございました」と言い、保育室に戻って行きます。痛いことも含めて、困ったことを大人に伝えられることは、自分の命を守ることにもつながります。生きていく上でとても大切な力が育っていると感じ、嬉しくなります。

さらに、大人とかかわる機会が豊かになるように、年長児の当番活動の一つ「お休み調べ」を改善しました。これまでは、当番が各学級を回り、所定の場所に「お休み調べ」の用紙をただ置いていくだけでした。その方法を、当番が「お休み調べ」の用紙を職員室に持って行き、教職員に口頭でも報告する方法にかえました。子どもたちに職員室が親しみやすくなるようにと、子どもの視線に合わせて『しょくいんしつ』と書かれた表示もつけました。当番は、「失礼します」と声を掛けて、教職員に「〇〇組の〇〇です」「〇月〇日の〇組のお休みは〇人です」「合わせるとお休みは〇人です」と報告したり、教職員の質問に答えたりします。その後「失礼します」と挨拶をして、戻って行きます。緊張した様子も見られますが、大人との改まった会話をする子どもたちに、幼稚園の最年長者としての誇らしさを感じます。

子どもたちは、このように大人とかかわる経験を通して、社会的にも通じる言葉で伝える力を学んでいきます。新型コロナウイルス感染予防に心がけながら、友達とかかわりの中だけではなく、大人とのかかわりの中でも、しっかりと生きる力を育んでいきたいと思います。



年長児は節分に向けて、風船に根気よく一枚一枚、半紙を貼り重ねて、鬼のお面を作っています。



職員室の入り口に『しょくいんしつ』の表示をつけました。当番が「お休み調べ」の書類を持って報告に来ます。



職員室に来る子どもたちの安全を確保するため、玄関の点前に作った柵を活用しています。



一年中で一番寒いと言われ、まだまだ「春は名のみ」ですが、園庭の梅のつぼみは日に日に大きくなっています。